

遊馬 PLUS

2024年6月

54

vol.

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
http://sites.google.com/site/yushunplus/

無料

ご自由にお持ちください
www.kanazawakeiba.com



いなかことありました
プレイバック

春の重賞

振り返り

石川優駿への切符は?
北日本新聞杯

一着馬に石川ダービー改め石川優駿の優先出走権が与えられる重賞、北日本新聞杯が行われた。

一番人気は昨年の金沢ヤングチャンピオンを制して三連勝中の牡馬リメンバーアポロ。二番人気に前走中央からの移籍後初勝利を挙げた牝馬リケアマロン。以下地元生え抜き勢のダブルアタック、ニキが続いた。

レースはリメンバーアポロがハナを切り、それをダブルアタックがぴったりマークして追いかけて、リケアマロンが続く。

淀みなく流れ、勝負どころの二周目向こう正面で先頭を行くりメンバーアポロに故障が発生して競争中止。凶らずも先頭に立ったダブルアタックをリケアマロンが交わしてコーナーを進む。

直線に向く時にはリケアマロンが抜け出して差を広げてゆく。終わってみれば五馬身差の圧勝となった。最後まで抵抗したダブルアタックが二着確保、そこから六馬身離れた三着にニキが続いた。

リケアマロンは初重賞とともに石川優駿への優先出走権を得た。鞍上は大井の西啓太騎手。

道中アクシデントはあったが上がり三八ロンは最速の三八秒一。金沢が合っているのかこれで三戦二勝二着一回の完全連対。混戦模様の中歳戦線に有力な一頭がここに名乗りを上げた。

一着馬に百万石賞の優先出走権が与えられる重賞、利家杯が行われた。

一番人気は当レース三連覇中の絶対女王ハクサンアマゾネス。単勝一〇倍、圧倒的な一番人気に支持された。二番人気は元中央三勝クラスのサジエス、以下昨年の中日杯三着セブンダートオー、昨年のサラブレッド大賞典優勝馬ダイヤモンドラインが続いた。

ゲートが開くとハクサンアマゾネスが一枠を生かして好スタートからハナを切るとガムランが競りかけるように追いかける。さらにエイシアンヴァルとベニスビーチが続く。

レースが動いたのは二周目の向こう正面。ハクサンアマゾネスがすーっとガムランとの差を広げる。こうなればもう彼女の独り舞台。馬場の真ん中を堂々と駆け抜け、後続各馬を置き去りに独走。鞍上の吉原騎手は鞭も使わず先頭を行く。

そして後続に八馬身をつけて四連覇のゴール。同じく四連覇を狙う百万石賞へ弾みをつけた。

二着に道中三番手で我慢していたエイシンアンヴァル、三着は交わされたダイヤモンドラインを最後に抜

き返したベニスビーチ。

ハクサンアマゾネスはこれで重賞二二勝目。自身の持つ最多重賞優勝記録を更新。吉原騎手はこの日行われた、通算三千勝&平地の地方競馬全場重賞制覇の報告会に続いて二度目の表彰台となった。

七歳になっても衰えるどころかまだまだ金沢のトップであり続けるハクサンアマゾネス。今年はどうな活躍を見せてくれるのか。今年も彼女から目が離せない。

能登を中心にした大きな地震で幕開けた二〇二四年の石川県。

あの日からもう半年。競馬はいつも通りに開催が続いているが、能登地方の復興は道半ば。まだまだ日常を取り戻せない人は多い。

そんな状況に対し、金沢競馬は今年度のシーズンに能登半島地震復興支援シリーズとして、毎開催「能登半島地震復興支援杯」を行い、収益の一部を復興等の費用に充てている。

ただ、馬券の売り上げが復興の役に立つならば、レースの充実にも一層の努力を求めたい。今年の金沢スプリングカップのような五頭立ての重賞では、買う意欲も失せてしまふ。頭数の揃ったレースの盛り上がり期待する。

また、能登の事を忘れさせないためには話題作りも必要と、能登半島地震復興支援杯を行っている。しかし大体が平場の競走で、注目度もそれほど高くない。

重賞の名称変更は難しいとしても副題に「能登半島地震復興支援杯」と銘打つのはどうか。白山大賞典ならば「農林水産大臣賞典 能登半島復興支援杯 白山大賞典」と言った具合。これならば、全国の競馬ファンも能登の為に興味と意欲を持ってくれるだろう。

東日本大震災の時はヴィクトワールピサとトランセンドがドバイWCでワンツーフィニッシュを決めて震災で沈んだ空気を盛り上げた。

レースを盛り上げる事で、財政面も精神面も上げる事はできる。沈んだ気持ちも吹き飛ばような馬の活躍を今年に特に期待したい。

また、能登の事を忘れさせないためには話題作りも必要と、能登半島地震復興支援杯を行っている。しかし大体が平場の競走で、注目度もそれほど高くない。

重賞の名称変更は難しいとしても副題に「能登半島地震復興支援杯」と銘打つのはどうか。白山大賞典ならば「農林水産大臣賞典 能登半島復興支援杯 白山大賞典」と言った具合。これならば、全国の競馬ファンも能登の為に興味と意欲を持ってくれるだろう。

東日本大震災の時はヴィクトワールピサとトランセンドがドバイWCでワンツーフィニッシュを決めて震災で沈んだ空気を盛り上げた。

レースを盛り上げる事で、財政面も精神面も上げる事はできる。沈んだ気持ちも吹き飛ばような馬の活躍を今年に特に期待したい。



また、能登の事を忘れさせないためには話題作りも必要と、能登半島地震復興支援杯を行っている。しかし大体が平場の競走で、注目度もそれほど高くない。

重賞の名称変更は難しいとしても副題に「能登半島地震復興支援杯」と銘打つのはどうか。白山大賞典ならば「農林水産大臣賞典 能登半島復興支援杯 白山大賞典」と言った具合。これならば、全国の競馬ファンも能登の為に興味と意欲を持ってくれるだろう。

東日本大震災の時はヴィクトワールピサとトランセンドがドバイWCでワンツーフィニッシュを決めて震災で沈んだ空気を盛り上げた。

レースを盛り上げる事で、財政面も精神面も上げる事はできる。沈んだ気持ちも吹き飛ばような馬の活躍を今年に特に期待したい。





栗原騎手インタビュー

最後まで白熱した二〇二三年度のリーディングジョッキー争い。青柳騎手との競り合いを二勝差で制して初めてのリーディングに輝いたのがデビュー八年目の栗原大河騎手。

二年度の七一勝から一二二勝への大躍進で一気にブレイクした栗原騎手。競馬の事、それ以外の事を聞いてみました。

「いい馬に乗せてもらっているし、それに伴って結果が出ている。僕自身が変わった訳ではないですね」

リーディングを奪取してブレイクを果たしても謙虚に語る。一二二勝の中で重賞は四勝。いい馬と巡り合いその能力を発揮させる腕がついた、と言う所か。



重賞の舞台で緊張はするだろうか。「緊張には弱いけど、なんとかなる

かなと。自分がどうこうではなく馬を信じて紛らわせています」

四勝した重賞では全て一番人気と二番人気。馬の力を信じて緊張を乗り越えての勝利だった。

その勝ち方を見ると先行をして前に付け、堂々と先頭に躍り出るのが得意なように見えるが。

「差が好き。溜める競馬が自分には合っている」

と分析。

「前を見ながら自分で仕掛ける事も出来る。追いかける恐怖よりも追いかける方がいい」

栗原騎手の腕に追われて伸びて差すレースを思い起こす事もあるだろう。

さらに得意な、好きな距離はと問われると。

「四〇〇mと一五〇〇m。一番レースが多くて乗る事が多いから」

やはり慣れた距離。しかし、好きな理由はそれだけではなく、

「二七〇〇mとか長い距離になると強い馬が力通りの決着になるので。慣れた距離だと自分が穴馬乗っている時は一発あるんじゃないか、と」

では短い距離、九〇〇mはどうか。

「九〇〇はスタートが大事。スタートが得意でない馬は命取り。一四〇〇、一五〇〇はまだリカバリーできる」

どんな人気の馬でも一発を狙い、

リカバリーのチャンスをうかがう。そんな勝利への食欲さも、リーディングを取った理由と言えそう。

「長い距離は凄いい騎手の腕が試されるイメージ。僕より上手い騎手がたくさんいるので腕では勝負になりにくいしね」

そう控えめに言うが、昨年二〇〇〇mのサラブレッド大賞典を勝っている。十分に勝負できているように思われる。これからはさらなる長い距離での腕前に注目だ。



いかな」

と笑う。

好きな食べ物と聞くと、「肉、焼肉！ タンが一番好き」

やはりアスリート、スタミナのつく物が好み。体重が気にならないならお腹一杯に食べる所だろうが、

「そこまで減量には苦労しないタイプなんです」

何とも羨ましい体の持ち主である。そして、最近よくやっている事が、

「毎朝で飯食べながら日本人メジャーリーガーの活躍のハイライトを見る事」

神奈川の野球少年だった栗原騎手は元々横浜ファン。大谷選手や山本選手はもちろん、今永選手にも注目している。

六月は石川優駿、百万石賞とビッグタイトルが続く。

「(石川優駿は)三人しか勝っていないので四人目になりたい」

昨年までの石川ダービーは七回行われて優勝騎手は吉原、中島、青柳の三人。今年石川優駿と名称変更されるが四人目の座を狙う。

そして、過去に優勝経験のある百万石賞。

「百万石賞は勝った事あるけど、もう一度。あの時は無観客だったのでファンの前で勝ちたい」

静かな競馬場での歓喜ではなく歓声の中の歓喜を浴びたい。

「歓声が大きいとモチベーションは凄く上がる。生で(競馬を)見た方が迫力もあっていいんじゃないかな。お客さんに足を運んでほしい」

若きリーディング栗原の騎乗を見に競馬場に行こう。そして、二年連続のリーディングを狙い、その先の目標も。

「金沢と言えば吉原さん、だけどそこに僕も加わってあげたら。栗原もいるよねーと言う感じで加わってあげれば」



リーディングを続ければ金沢以外の競馬場でもその騎乗を見る事も出来る事が増えていくだろう。その名を全国に轟かせ、目指せ金沢の大看板。

二〇二四年も栗原騎手から目が離せない。